平成 24 年度カーティン大学英語研修報告書
所属 工学部 機械工学科 2 年
学籍番号 1111047
氏名 齋藤 剛

カーティン大学英語研修報告書

春休みの 2 月から 3 月にかけての 3 週間を利用し、大学のプログラムの一環である西オーストラリアの都市、パースにあるカーティン大学に語学研修に行った。
今回の短期留学の目的は、総合的な英語力向上は勿論のこと、他国の文化に触れることで、より英語という語学に対する興味、学ぶ意欲を高める、また、現在の自分の英語が現地人にどこまで通用するのかを確かめる、ということである。

1. パースでの生活

今回の留学期間、オーストラリアは夏であり、最高気温は 30℃後半、40℃近くを記録する日もあった。しかし湿度が低くカラッとした天気で、日本の夏よりは過ごしやすいと感じた。対して最低気温は 20℃弱。日によっては肌寒く感じる場合もあり、パーカーは 1 枚持っておくべきだ。
西オーストラリアは、シドニー、メルボルン等の大都市を有する東オーストラリアと比べると都市はさほど多く存在しない。カーティン大学近辺でいえば、パースシティ、フリーマントルがあり、放課後、週末に行くことができる。しかし、営業時間が短く、17 時には殆どの店が閉店するため、放課後に行くのは困難かもしれない。
パースには各地にショッピングセンターがあり、閉店時間こそは早いが、放課後に友人と出かけるなら近所のショッピングセンターに行くほうが多くの時間を楽しめる。毎週金曜日は様々な店がいつもより長く営業している。広場に屋台が出ていて、夜でもパースの街を楽しむことができる。

パースシティで友人と

平日の午後の時間を利用してパースの様々な場所を観光したが、その中でも特に印象に残ったのがロットネスト島である。フリーマントル駅からフェリーで 30 分程の場所にある離島であり、綺麗な海に囲まれている。

マウンテンバイクを貸し出しており、私は約 2 時間かけて島の最西端まで行った。唯一ロットネスト島にしか生息しないクォッカというネズミを見ることもできた。

クォッカ

2. 英語研修プログラム

渡欧前に行ったテストにより英語の習熟度別にクラスが振り分けられ、他校、他国の人々と共に授業を受けた。私のクラスは、自分を含め日本人が 11 人、中国人が 2 人、サウジアラビア人が 3 人、ブラジル人が 1 人と、日本人が過半数を占めるクラスだった。授業内での会話は全て英語で、私にとってはかなりシビアだった。授業を受けてみて思った率直な感想は、日本人は会話力が劣っている、ということだ。日本人の性格上、照れ臭く自主的に口を開けることが多くはない人もいるのだろうが、少なくとも私は、話さないのではなく、話せなくて口を開けることができなかった。それは日本での勉強、生活の中で英語を話す機会が多くはないからだ。先生、クラスメートが外国人の環境で授業に臨んだことは、日本の授業では味わえない貴重な経験となった。

クラスメートと

20 名弱の少人数で授業を行うため、必ず 1 度は先生からの質問を受ける。質問は勿論英語で聞かれる。そのため、午前 120 分、午後 120 分の計 240 分、例外なくいつも緊張感を持って授業に臨めた。グループディスカッションの場も多く設けられ、日を重ねるごとに、失敗を恐れることなく英語を話すようになった。

3. ホストファミリーとの生活

私のホストファミリーはフィリピン人で、父、母、祖母という家族構成だった。食事は鶏肉や白米がでて、日本とあまり変わらなく食べやすかった。日本の生活と大きく違う点は洗濯であり、水不足問題により週に 1 度しか洗濯をすることはできなかった。また、家によっては水道水を飲料水として使用できない家がある。電気に関しても日本より高圧で、240~250V,50Hz であり、プラグの形状は C,または D 型である。そのため、家で電気機器を使用する場合には変圧器と変換プラグか不可欠である。

私のホストファミリーはクリスチャンであり、毎週日曜には教会に行き、皆で歌い、祈り、食事をした。教会には日本で仕事をした経験がある方がいて、後日一緒にフリーマーケットに行ったり、ホストファミリー以外の人とも親交を深めることができた。予定がない日は海や公園に連れて行ってくれ、心優しいホストファミリーだった。

2 週目、ホストファミリーの祖母がフィリピンへ帰国することになり、家族や教会の方々とお別れ会を開いた。フィリピン人は歌うことがとにかく好きで、皆でカラオケをして楽しい時間を過ごした。最後に祖母から手紙をいただき、皆の温かさを身に染みて感じる日となった。

教会の方々と

ホストファザーと

友人のホストファミリー宅に行き、バーベキューもした。他の友人も呼び、10 人を超える人数だったのでホストマザーに迷惑がかからないか心配だったが、沢山の食事を用意してくれ、温かく迎え入れてくれた。自分以外のホストファミリーの優しさも感じることができた。

友人のホストファミリー宅でバーベキュー

4. 研修を通して

私の人生の中で初めての海外だったので、言葉が通じるか、生活ができるかなど最初は不安ばかりであった。しかし、友人やホストファミリーに恵まれ、早い段階でオーストラリアに溶け込めたと思う。日を重ねるごとに英語で話すことが楽しめるようになり、自分の英語が通じた時に嬉しさを覚えた。3 週間を経て、もっと色々な海外の文化に触れたい、海外の人々と話したいという意欲が出た。そのためには、相手の話を理解できるようになると共に、自分の話も理解されるよう、これからの英語の勉強に更なる力を注ぐべきだと、身をもって感じた。